

## ごあいさつ

平素は、私ども中兵庫信用金庫に格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。  
ございます。

ここにお届けします「中兵庫信用金庫の現況」は、2023年度の業務活動や業績の推移を中心に、地域とのかかわり等をわかりやすく編集したものです。ご高覧の上、〈なかしん〉に対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

昨年度を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、社会生活や経済活動も回復に向かって進んでいく兆しが見えました。元日に発生した能登半島地震は非常に重く暗いニュースでしたが、証券市場では日経平均株価が2月下旬に史上最高値を更新し、平成バブルの株高を超えることはないと思っていましたが非常に驚かされました。また、金融市場では依然として低金利水準が続きました。ようやく3月に日本銀行がマイナス金利政策を解除し17年ぶりに利上げに転じましたが、金融機関にとって日本銀行の金融緩和政策が出口に向けてどのような舵取りがなされていくのかが、大きな関心事となっております。

このような中ではありましたが、当金庫はおかげさまで皆さまからの変わらぬご支援を賜り、当期純利益は1,108百万円を計上することができました。また、経営の安全性・健全性の指標である自己資本比率は27.48%、自己資本額も588億円となり、十分ご安心いただける内容であると思います。

2024年度に入りましても、国内経済は円安や資源高などによる物価上昇で実質賃金が上昇しにくい状況が続いており、個人消費の伸び悩みが懸念されています。また、地域経済の支えである中小企業にとりましても、人手不足やコスト高への対応など課題が多い状況にあると考えております。昨年実施した元ソフトバンクホークス監督である工藤公康氏の講演にあったように“未来を拓くために考え行動”し、地域やお客様の持続可能性の向上に貢献するとともに、当金庫自身も高い健全性を維持し経営力を強化して参ります。今後とも、なお一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのますますのご繁栄とご健勝を心から祈念申し上げます。

2024年7月



理事長 足立厚郎

# あなたとまちと フェイス to フェイス

